

エンドウ



豆を食べる“実エンドウ”と豆が大きくなる前に若取りし、さやごと食べる“サヤエンドウ”とがあります。完全に熟して豆として収穫するのか、やわらかい豆の状態では収穫するのか、さやごと食べられるくらいに若取りするのかが違いができます。

作型

寒さには強いが、生長するにつれて耐寒性がなくなってくる。厳寒期を迎える前に敷きわらをするともに、北側を土寄せして風よけをする。春の生長が盛んな時期には、月に1回追肥すると草勢が維持でき収穫期間を長くすることができる。

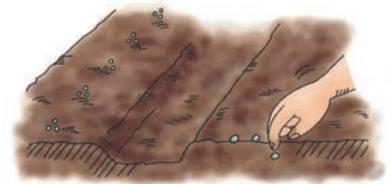
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
普通栽培						■	■				○	○	さや取り(兵庫絹莢・つるあり絹莢) 実取り(うすい久留米ゆたか・グリーンパワー) スナック(つるありスナック)

○：種まき ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり 1a当たり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	20kg
BMようりん	2kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 1a当たり	
油粕	10kg
畝立時施用	

- 1条植え：畝幅120cm 株間40cm
- 1ヶ所2~3つづまきとし、薄く(2cm)覆土する。
- 種子を20℃の水に2~3時間浸し、十分水分を与えてから播種すると発芽しやすい。

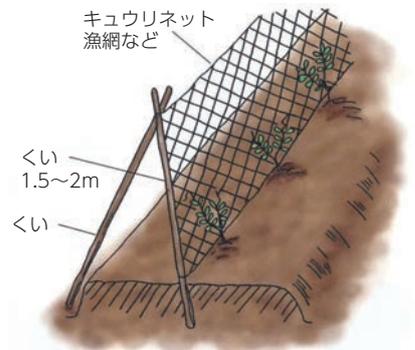


間引き

- 草丈が7~8cm位になったら1ヶ所2本立てにする。
- 間引き後、保温のため敷きわらをする。北側を土寄せして風よけを作る。

整枝・土入れ

- 巻きひげが発生するようになったら、つるがからみやすくするためにキュウリネット、漁網等を張る。
- 枝が混んできたなら、茎葉に十分光が当たるようにふところの枝を整理する。



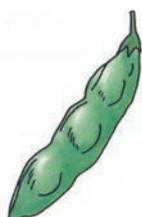
追肥・土寄せ

- 3月中旬：野菜専用肥料4kg/aを施用後、軽く土寄せを行う。

防除

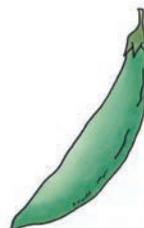
病害虫名	耕種防除
アブラムシ	光反射テープを畝上に張る
うどんこ病	風通しを良くする

収穫



実エンドウ

子実がよく充実し、さやがふくれて表面が光沢を失い、ざらざらするようになったときに収穫する。



サヤエンドウ

さやが平らで、外から子実の形があまりはっきりわからないうちに収穫する。



スナックエンドウ

若さやのうちから収穫できるが、子実が大きくなって、さやの断面が円形になるくらいふくらんだ頃が収穫時期。

コマツナ



コマツナは含有量で見ると全体的にはホウレンソウに若干及びませんが、ビタミン類、ミネラルなどどれをとっても非常に栄養価が高い緑黄色野菜で、カルシウムや鉄分においては、ホウレンソウよりもたくさん含んでいます。

作型

栽培時期により品種を変える。春収穫するものは、とう立ちしにくい品種を。防寒対策（トンネル、パスライトのべたがけ）をして栽培期間を長くする。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
周年栽培			○									○	みすぎ小松菜 よかった菜

○：種まき ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり 1a当たり	
堆肥	300kg
セルカ（有機石灰）	10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 1a当たり	
油粕	10kg
畝立時施用	

- 畝幅90cm
- 2条（条間20～30cm）

種まき

- 浅いまき溝を切り、むらなく種をまいて、軽く鎮圧し、覆土（1cm位）後、切りわらをする。（まき床が乾燥しないように）

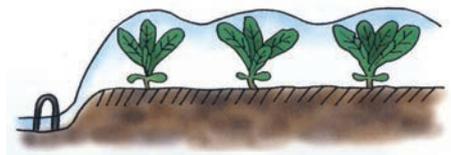
間引き・追肥

- 本葉1～2枚の頃、3～4cm間隔に。
- 草丈7～8cmの頃、6～8cm間隔に。
- 追肥は生育が順調であれば必要ない。
- 葉色が薄い時は、野菜専用肥料（5kg/a）または油粕（10kg/a）を条間に施用し軽く中耕する。



防寒対策

- 秋まき（10～11月）など11～2月収穫は、不織布（パスライト）等を直接コマツナの上にかける。（風で飛ばないようにとめておく）
- ビニールや寒冷紗のトンネル栽培も良い。（日中高温にならないように注意）



収穫

- 草丈20～27cm位で収穫する。（間引きながら）収穫時葉柄が折れないように注意する。

防除

病害虫名	耕種防除
アブラムシ類	光反射テープを畝上に張る 害虫侵入防止のため被覆資材を用いる